

発表

ワークで話し合った内容を、代表して3チームから発表して頂きました。
(今回のチームのネーミングは、新庄の名物を意識しています)

馬がっきチーム



人材・暮らし・交通・支援・観光・新庄まっりの6つのテーマに分類しました。新庄はご近所間のつながりが残っており、元気な子ども、お年寄りが多いと思います。しかし新しい活動に否定的な人も多いように感じています。また、情報発信が足りないのではないかと話にもなりました。新庄まつりでの障がい者の参加方法や、観光名所があるはずなのに、それが観光客に伝わっていないなど、これからは情報発信の方法や、住民同士の共有方法を考えることが必要なのではないかと思います。

とりもつラーメンチーム



自然が豊かで雪が多いので雪まつりなどが開催できる一方で、雪に時間とお金がかかるというデメリットがあると思います。また、新幹線の始発・終点なので遠方への移動は比較的便利ですが、車社会のため、車が無いと生活が難しいという話も聞きました。新庄市は山形県で唯一温泉がない市町村になってしまいましたが、舟形町の温泉が近いので、そこまで不便ではないことや、住みよいまちランキングで上位になることがあることなど、新庄の魅力をさらに考えていきたいと感じました。

あじさいチーム



新庄はおいしいものがたくさんあります。旨いラーメン、旨い蕎麦、あけぼの町…ということは酒も進む！優しい人が多く、人情味溢れる新庄での暮らしは最高ですが、一方で運動不足になりがちであったり、病院には持病持ちがたくさんいるのではないかと…？という話で盛り上がりました。その他にも、図書館などの公共施設がきれいで充実しているが、遊び場が少ないのではないかと意見や、四季がはっきりしていて災害が少なく良い、新庄まつりなどの誇りが持てる伝統文化があるといった話になりました。

講評

アドバイザー 醍醐孝典



模造紙を見てみると、魅力と課題は表裏一体であるということが分かると思います。これは「まちづくり」においてよく言われることでもあります。課題も見方を変えれば資源になります。今日のワークにはそういった可能性がかなり隠れているのではないのでしょうか。そして何より、ピンクの付箋(魅力)がたくさん出ていることが素晴らしいことだと思います。新庄愛がひしひしと伝わってきました。ワーク中もほとんどのチームが立ち上がり、みんな

で1つのものを作り上げているようでした。これがまさに次の時代の市民と行政職員の協働のあり方なのではないかと思います。今回は新庄市の将来像について、3回目からは興味のあるテーマに沿ってグループに分かれながら進めていけたらと思っています。次回までの1ヶ月はぜひ今日の内容を振り返りながら、どんなテーマがいいのか、自分の理想の暮らしや新庄のまちについて考えていてもらえると嬉しいです。

参加者の感想

(アンケートより抜粋)

10~70代の幅広い世代の意見を聞くことができおもしろかった / 新庄市の良いところ・悪いところを改めて考えるきっかけになった / 誰も意見を否定せず議論しやすい場だった / 一人で考えていても言葉にできなかったことがワークを通じて言語化できた / 世代や環境ごとに様々な切り口の意見があった / 新庄愛に溢れていた / 意見交換の時間がもっと欲しかった / 次回が楽しみではない / 皆と一緒におもしろい新庄をつくっていききたい

次回のご案内

日時：2019年5月22日(水)
18:30~20:45

場所：新庄市民プラザ
新庄市の将来像について考えます。

お問い合わせ

新庄市総合政策課 企画政策室
tel.0233-22-2115

新庄未来 ワークショップ

2019年4月24日(水) 18:30~20:45
新庄市民プラザ 1階大ホール



Vol.1

山尾市長あいさつ



このワークショップで一番大切にしてほしいのは「相手の意見を否定しない」ということです。これを大切にしながら夢や現実を語り、これからの新庄を共につくっていかれたらと思っています。先日看護養成所開設準備課の先生方から、最近の看護師はワークライフバランスを非常に重視しているという話を聞き、時代は変わってきていると感じています。また、高校の先生方からは子ども

たちの進路選択の幅を広げるチャンスなので、今回のワークショップに生徒たちも参加させたいとの話もありました。この場で想像したまちの未来をどのように実現するかが私たち市役所職員に与えられた使命だと考えていますので、ぜひこのワークショップを楽しみ、仲間をつくってもらえたら嬉しいです。

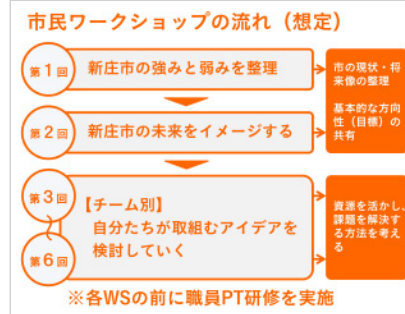
プログラム

- 開会、あいさつ
- 市長あいさつ
- 次期総合計画についてと新庄市の状況について
- 市民ワークショップの意義と目標、事例紹介
- テーブル内自己紹介
- ワーク「新庄市の魅力と課題」
- 発表、講評
- 閉会

このワークショップの進め方

新庄未来ワークショップは全6回で構成されており、第2回までは新庄市の現状や将来像を整理し、基本的な方向性(目標)をまとめていきます。第3回からはそれぞれが興味のあるテーマごとのチームに分かれて、新庄市の資源を活かし、課題を解決していくような具体的なアイデアを創出していきます。

今後のスケジュール ※本日!
第1回：4月24日(水)
第2回：5月22日(水)
第3回：6月19日(水)
第4回：7月31日(水)
第5回：8月7日(水)
第6回：9月11日(水)



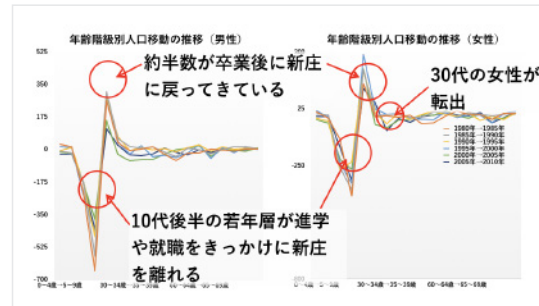


総合計画とは、新庄市を今後どのようなまちにし、どんな暮らしを送りたいのか、またそれに向けてどのような活動を行うのかをまとめた計画で、今回新庄市で策定するのは2021年～2030年までのものです。

策定にあたり新庄市の現状を見てみると、人口が年々減少しており、15年後には2万7千人台になるだろうと推測されています。特に注目すべきは、年少人口と生産年齢人口は減る一方で、75歳以上の後期高齢者が更に増加することです。これにより、今後福祉に関係するお金が増加し、それをいかに捻出していくのかといった課題が考えられます。

また、新庄市の公共施設や上下水道等のインフラの維持費用については、今後必要な経費が年間36.6億円かかり、これまでと同様のサービスを維持した場合は年間約21億円が不足するのではないかと見込んでいます。近年の新庄市の財政支出は増加傾向

にあります。補てんしているのはあくまで国からの補助金や借金であるという状況です。悪い状況が多く、正直、目を背けたくなるような現実かもしれません。しかし、ここで足をとめて考え直さなければ対応が遅れ状況は悪化してしまいます。だからこそ今回市民のみなさんと共に意見を交わし、共に新庄の未来をつくるきっかけにしていきたいと思っています。



東北芸術工科大学
コミュニケーションデザイン学科准教授

醍醐孝典

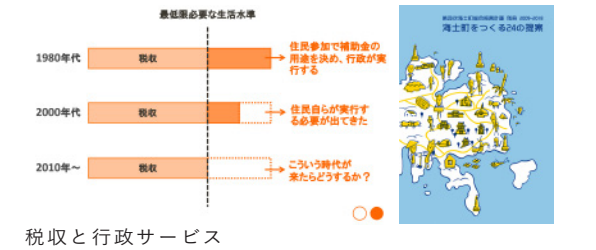
市民ワークショップの意義と目標、事例紹介



少子高齢化が進む中、人口が減れば税収も減ります。一方で日本全体の人口推移のデータを見てみると、高度経済成長期に爆発的に人口が増えており、今後の減少はかつての適正な人口規模に戻っているとも捉えることができます。かつての日本は暮らしを住民自らが作ってきましたが、人口が増え、税収が増えるにつれてその役割の比重が行政へと移ってきました。ですから、これからの時代は、住民一人一人が自分たちの生活やまちを良くし、幸せになるには何が必要か、まちのためになるのかを考え行動していくことがとても大切だと思います。人口は減っても、そういった意思を持った市民が増えていけば、これからの時代を生き抜ける魅力的なまちになるのではないでしょうか。特に今回のワークショップの特徴は各テーブルの進行役を市職員が務めていることです。計画策定後も市民の皆さんと一緒に活動を行なっていきたいと考え

いる市職員の熱意も感じて頂けたらと思います。

住民参加による総合計画策定の事例の1つに、島根県の海士町があります。島で生きるとはどういうことなのか、幸せとは何かをみんなで考え、確認し合いながら計画をつくり、そこから生まれた具体的な活動内容としては、幅広い世代の方々が交流できる場所を作るため、廃園になった保育園を皆んなでリノベーションして作ったことなどがあります。この計画では市民が24の提案をし、その後の10年間で全ての取り組みが進んでいます。



自己紹介

10のチームに別れて、名前、所属、特技や趣味、今の気持ちについて紹介し合いました。



ワーク 「新庄市の魅力や強み、課題や弱みを考えよう」

今回のワークショップでは、新庄市の魅力と課題について10のチームに分かれてまとめました。テーブルの進行役を市職員が務め、チーム一丸となりながら活気に溢れた話し合いがなされました。

交通

- ・新庄駅の始発・終点
- ・交通の便が良い
- ・道路が整備されている
- ・除雪が上手
- ・車が無いと生活が厳しい
- ・公共交通が不便



場所

- ・公園や図書館などの公共施設が充実している
- ・街並みが綺麗でゴミも少ない
- ・あけぼの町がある
- ・子供たちが自然の中で遊べる
- ・駅が綺麗で大きい
- ・気軽に人が集まれる場所が少ない
- ・若者が楽しめる遊び場がない

買い物

- ・買い物が便利
- ・スーパー・コンビニが多い
- ・他市町村から買い物に来る人が多い
- ・100円商店街がある
- ・商店街の衰退
- ・若者向けの店がない

土地・空き家

- ・空き家・空き店舗が多い
- ・空き家の中を片付けるところから？
- ・空き地の利活用



観光

- ・歴史遺産が多い
- ・キトキトマルシェ
- ・観光のメインがない
- ・情報発信が不十分

自然・風土

- ・自然豊かで四季がはっきりしている
- ・雪が多い
- ・水（井戸水）が美味しい
- ・のんびりできる
- ・雪が多く、除雪が大変
- ・自然保護

金・財政

- ・市の財政が不安
- ・除雪費用

食

- ・山菜や川魚など地のものが美味しい
- ・ラーメン屋が多く、どこも美味しい
- ・飲み屋が多い（あけぼの町）
- ・しょっぱいもの好きで持病持ちが多い（？）



教育・子育て

- ・子世代が同居できている
- ・子供の将来が不安
- ・大学がない
- ・子育て環境の不足



災害など

- ・災害が少ない
- ・治安が良い
- ・防災意識の低さ

福祉

- ・障害者福祉・老人福祉の環境
- ・高齢世帯や一人暮らしの老人が多い
- ・老後が心配

伝統・文化

- ・新庄まつりをはじめとした地域の祭り
- ・漫画家などの著名人を多く輩出
- ・方言
- ・演劇に熱心な人が多い
- ・人口減少による祭りの存続が心配
- ・新庄まつりに障害者が参加しにくい

魅力と課題のまとめ

魅力として多くあがっていたのは、新庄まつりなどの伝統や文化が多く残っていること、自然が豊かで、買い物なども便利であることなどがありました。一方で課題としては雪が多いことや車がないと生活が不便であること、人口減少などによるつながりの希薄化などが挙がりました。全体的には、多くの意見が魅力と課題が表裏一体となっていることが確認されました。